寛永諸家譜

藤原氏　癸廿五冊之内十一
支流

124

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186(124)	
函號	76	1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

戸川　大河原　江原
高畠　笠原
石原　早川
川上　河野
西川　川合
浦野

寛永諸家系図傳
藤原氏　癸十一
支流
戸川

定安
玄蕃頭　生国安藝

浅草文庫

秀安

肥後守　生国備後

宇喜多和泉守忠家よつて家老たり

として備前児島常山の城あり

在住す

天正十二年太閤秀吉の命によりて

従五位下に叙す

文禄元年九月六日卒す年六十

法名友林

遠安

肥後守　生国備前

宇喜多忠家同息男中納言秀家

よりて二代ともに家老たり

常山乃城にあり何[illegible]

天正十八年従五位下に叙せらる

慶長五年　遠安秀家が許を去りて

浪人となる

同年

東照大権現上杉景勝御征伐のとき
めしぐされ跡付小山より御帰に
これをきゝおよびて石田治部少輔
三成が陰謀露顕しければ又
台旆を濃州関原よりさし給ふ
までに合戦此時ふたゝびて運安
家前より郷戸の川をわたし一

番乗をあらそひ敵兵をうちと
り戦功をあらはし　御感のたま
はり　備中玉座瀬の城をあづ
しを領したるか

同十九年大坂陣のとき中嶋此
同海老江よりたゝかひそこひ
軍功をあらはし備の敵を討ものゝ
あらそて江口跡田福嶋此二ヶ所
をせめとるか

大権現の台命を蒙られし　御感をかうむりて
且功ありしかば敵軍ちりぢりになりて
小勢をもつてあまたさんざんにかけちらすと
[illegible]浅野但馬守が嫡子小
厳命をそむきしを咎めて浅野
左衛門佐を加勢ありしが悔りたる
寛永四年十二月二十六日卒す歳五十一
法名覚妙

正安
主水正　生国同前
慶長六年城州伏見にて生る
大権現より拝謁して[illegible]給
同七年江戸へ下りて
台徳院殿に仕へて[illegible]
元和四年八月二日卒す歳二十三　法名
宗光

安平

主水正　生國武蔵

元和四年十一月

台徳院殿に拝謁したてまつりて

正安が家督を譲領す

寛永二年

将軍家に拝謁したてまつる

同九年御小姓組の番をつとむ

正安

土佐守

元和七年二月

台徳院殿に拝謁したてまつる

同年六月めしいだされて仕ふ

寛永二年従五位下に叙せらる

令安

権左衛門　生國備中

寛永十年
将軍家に拝したてまつる
同十二年より小姓組の番をつとむ

安元

内蔵助（くらのすけ）
寛永二年　生国駿河（するが）
将軍家に拝謁したてまつる
同九年十二月十日百石の領地をたまふ

安利（やすとし）

平右衛門　生国同前
寛永二年
将軍家に拝したてまつる
同九年より書院（しよゐん）番（ばん）をつとむ

家紋　梅輪内

国立公文書館
National Archives of Japan

大河原

家傳ありしいはく大河原源七左衛門有重元弘元年　後醍醐天皇より志てかひさくなりけり笠置城ありしことなれその子孫大河原と称して志るすといへども有重以下中絶

某

源左衛門　生国紀伊

元亀三年三方原合戦のとき

東照大権現にしたがひたてまつり先

手となりて討死

正勝

源左衛門　後外記と号す　生国同前

三方原合戦のとき先手にのぞみ

同苗孫次右衛門と一所して忠

戦功あるそののち同苗左馬助

と一所して旗奉行となる

寛永四年三月廿一日七十五歳にて

死去　法名西林

正良

柴田権兵衛　後大河原源左衛門也

号そ　生國三河
慶長六年正月十七歳のとき
大権現よりつくらくまいりて小十人
組にまかりとめそのゝち御納戸
の番をつとむ
同十九年駿府にて浅城殿守より
て座間のこゝろあり候し
金銀をおくらめ見くたされと封じ
米田権兵衛と名をあらためてまつる

大権現これを　台覧あるそのこゝろまく
汝が祖父又大河原源蔵武勇のほ
まれ何といへよ米田をあら
ためて大河原と称すべきとな
なりと
元和元年大坂凱旋のち暇給り
たかしく流浪籍にてありけり
おされ又　倍していたく世累世傳
来の称号をあらためおよび今より

猿若清をはしめて源左衛門と
名[illegible]しとまてよ[illegible]
[illegible]大河原源左衛門と号せ

同二年

大権現薨御の後江戸へきたりて
台徳院殿へしは〳〵まゐりてそ
れ御能の相伴とある

寛永九年

将軍家へしは〳〵まゐりて同役

座[illegible]とも
同十四年三月十六日　仰をかうむりて
御前ちかく候ひて

某

源左衛門

家紋　鳥居

江原

某

孫三郎　生國三河
清康君につかふまつる
大永六年十一月三日死去　法名長蓮

利全

孫大夫　初の名ハ孫三郎　生国同前

廣忠卿より後へそのゝち

東照大権現につかへ奉る海川安

慶長七年七月朔日八十四歳にして

死去　法名長心

金全

玄蕃　はじめの名を孫三郎　生国

同前

大権現より後の人つかへ奉り後

天正十二年長久手合戦のときさる名

をえたるよし

同十八年小田原陣に供奉し

元和二年六月二十二日六十六歳にて

死去

信次（のぶつぐ）

九郎太郎　生国同前
慶長十一年十一月六日死去歳四十七
法名浄覚（じやうかく）

生次（なりつぐ）

九郎右衛門　生国三河（みかは）
台徳院殿に仕へたてまつり大坂御
陣のとき阿部（あべ）備中守（びつちうのかみ）が組（くみ）にありて
高名（かうみやう）をあらはせり
寛永六年七月七日病死歳五十二
法名円心（ゑんしん）

忠次（たゝつぐ）

三郎右衛門　生国同前
台徳院殿につかへたてまつり大坂御
陣のとき阿部備中守が組に属（ぞく）し
て高名（かうみやう）をあらはせり
寛永十六年十一月四日四十八歳

にして死す　法名善徹(ぜんてつ)

永次(ながつぐ)
左平次(さへいじ)　生国武蔵(むさし)

栄次(しげつぐ)
九郎太夫　生国三河

政全(まさたけ)
孫兵衛　生国同前

台徳院殿につかへまつり関原(せきがはら)
あるひハ大坂両度の御陣(じん)に供奉(ぐぶ)
いたしぬ
将軍家よりしたしくまつりて御池奉行
とゝまる

盛全(もりまさ)
勘助(かんすけ)　生国武蔵

直全

与右衛門　持別ようまろ

家紋　丸の内二柏紋　鏑矢

高原

次利

久右衛門尉　讃岐の高島に住る
代々高島あるひは男木島女木島
に住て
天正年中豊臣秀吉備中高松の
城へ出陣のとき次利これにして

ぜいく海陸の要害とかためまく
軍功ありしかば
同年三月二十日備前の国児島郡の
内なる村にて百石の地をとりく
かれもそのころ秀吉備前国を
宇喜多秀家にしたかはせしかば
まく又なる村清秀家の下に領と
なる次利もまた此の地を領
せり秀吉次利ありつの代の地域

また海不為さの旨あるといへども
はたさずして果さで
元和九年十月十日死す歳八十八

次播

在仍
文禄元年朝鮮陣のとき次播も法
志摩守正成がちからをたすけて渡海
し戦場ありありく秀吉その

功を賞しく刀ならびに拝職をせ
られ給ふ
慶長五年関原陣のときも伏見城
とおなじく
東照大権現に謁しくまいりて
近より　鈞命をかうむりて山城と
共に籠別より封國をなしく
歸服せしむ
同十九年元和元年大坂両度の陣

に供奉として落城の後ほまれ
の御孫をもうけ御げり小島より
たりしくこれ大坂浪人を穿鑿
すべきことあなたまうぞて彼地より
いまだ大坂の落人大善院が諸賊
を収めし文その郷とをれ具し
て御めとこれを執事に告ることこ
ろしまゐりら　名に依り達し
大権現その功を賞してならびに大善院

が誅戮を被りし時に
元和九年八月十四日に死す歳四十九

利久

市兵衛尉
松平玄蕃頭が許にありて
元和七年備前ありしをひくく死して

吉久

与左衛門尉
生駒壱岐守が許より至今は浪人と
なりまく幸嶋にありし居て

直久

次郎右衛門尉
元和八年十二月十八日
台徳院殿
将軍家ありし拝謁しそくかりし所
翌年十二月十八日　台命によりて
父が遺跡を領じ江戸に居せしめ

且そのうち御暇を給り隠居
し勤仕をもとめてやまし出頭男衆
女衆に八百石の地を領し亦入られ
りし捨地して二千石となりしまかれ
いつれもゆるさるしして寺沢正成を招
酒井雅楽頭忠世の家来

次則

久右衛門
寺沢兵庫頭許にあり

家紋　輪貫

国立公文書館
National Archives of Japan

笠原

信為

越前　生國伊豆

小田原早雲寺[illegible]

康勝

能登　生國同前　法名神眼

北條氏綱(うぢつな)につかふ

照重(てるしげ)

平氏清門　生國武藏(むさし)
北條氏政につかふ
天正九年十二月十九日豆州(ずしう)
戸倉(とくら)の城をせめて討死(うちじに)　法名
全(ぜん)齋(さい)

重政(しげまさ)

孫次郎　生國同前
天正十九年
東照大權現につかへまつりてやりぶ
たしめを御小姓(こしやう)となりてそのゝち
大御番をつとむ
寛永二年九月七日四十七歳にして
死去　法名玄(げん)徹(てつ)

信重（のぶしげ）
作次右衛門　生國同前
元和二年はじめて
台徳院殿にまみえたてまつりて大御
番をつとむ

信定（さだ）
江右衛門　生國同前
元和九年八月十九日
将軍家に謁したてまつりぬ

為次（ためつぐ）
平六郎　生國同前
寛永十一年
将軍家にまみえたてまつりて大
御番をつとむ

家紋　丸の内三柏（みつがしはの）

国立公文書館
National Archives of Japan

某

石原

市左衛門尉　生国参河

東照大権現にしたしくつかへまつり

厳命をうけて後より池田三左衛門尉

輝政の室家となりつゝ

安長（やすなが）

小市郎　生国同前

大権現にしつかへまつる

慶長二年七月九日二十四歳にて死去

安正（やすまさ）

小大夫　生国駿河（するが）

慶長八年

台徳院殿にしつかへまつり亦

安吉（やすよし）

与右衛門尉　生国武蔵（むさし）

寛永十年

将軍家にしつかへまつり亦

家紋　結雁金（むすびかりがね）

国立公文書館
National Archives of Japan

石原

政一

大藏丞　本國甲斐

武田信虎につかふ

政成

豊後守　甲州に生る

政吉

信玄ハ諸将にすぐれて数度
戦功ありしかバゆへに信玄感書を
さづけていはく汝勇士のうちにおいて
一二をあらそふ者なれバ一二の
字をつきて旗の紋となすべしと
おりしか感書に画をつけて
八十歳にして死せり　法名常全

豊後守　生国同前
東照大権現にめされて謁し奉り
奥州陣より供奉をつとむ
信州上田陣のとき
台徳院殿にしたがひてまかりける
濃州関原にて討死

吉次

太郎右衛門　信州に生れ

台徳院殿に拝謁し大坂両度の御陣に
供奉す
元和九年 仰をかうむりて駿府にいたり
大番を勤む
寛永十年七月めされて
将軍家に拝謁し糧米を賜ふ
同十六年 仰をかうむりて奥方の
御番を勤め上総小中村にをひて
領地を賜ふ

真次
助左衛門

吉春
善兵衛

正次
三之助

家紋 輪違

国立公文書館
National Archives of Japan

石原

佳宗

大蔵　生害信濃

武田信玄同勝頼ニしたかふ

重宗

孫助

生国同前

信玄并び勝頼ほろびてのち
芦田右衛門大夫に属て
天正十年
東照大権現甲州新府に 渡御ある
のとき重宗軍忠を遂しに
よりて慶長五年関原御陣のとき
めされて[illegible]くたまはりける

名字

孫助　生国上野
大権現
台徳院殿につかへたてまつりて大坂
両御陣に供奉し其後
将軍家につかへたてまつり[illegible]

家紋　一二

国立公文書館 National Archives of Japan

石原

正秋

清次郎　生国甲斐

武田信虎并に信玄勝頼につかふ

法名道慕

某

新左衛門尉　生國同前　法名了悦

信長につかふ

天正十年甲州入國のときめされて

東照大権現に謁したてまつる

のち

台徳院殿につかへたてまつる　畢

一重（かずしげ）

清左衛門尉　生國甲斐（かい）

大権現

台徳院殿

将軍家につかへたてまつる

正重（まさしげ）

清左衛門尉　生國美濃（みの）

一重(かずしげ)ちかしと屋しなひとく子と云実(じつ)
を一重が姪(めい)なるを
将軍家へしたしくまいりける

家紋　丸(まる)の内に柏(かしハ)三葉(みつば)

石原

昌明

四郎右衛門尉　生國甲斐

武田信玄同勝頼につかへ甲斐一国の公事奉行となる

天正十年

東照大権現甲州に入国のとき謁し

ゝくまつる
同年　嚴命をかうふりて又甲斐一
国の政事執行をつとむ
慶長十二年七十八歳にて死せし

安昌

彦太郎　生国同前
台徳院殿にしたしくつかまつりて大坂
両度の御陣にも供奉せし後　鈞命
によりて駿府の御番をつとめ
そのゝち　尊命をかうふりて駿河
大納言忠長につかへし十二年の
あひつとむ
寛永八年三十三歳にて死せし

安吉

權平　生国駿河

家紋　丸の内ニ三柏

早川

雪成

八十郎　尾引北方に生る

台徳院殿に仕へまつりける

慶長十九年三月八日二十六歳に

て死せし

好勝（よしかつ）

太郎兵衛尉　生国武蔵

雪成（ゆきなり）やしなひて子とす実は日下部（くさかべ）

兵右衛門定吉（さだよし）が子なり

慶長十六年十二歳にしてはじめて

台徳院殿に拝謁す

元和二年

将軍家につかへたてまつり御書（しよ）

院番（ゐんばん）をつとむ

正勝（まさかつ）

十右衛門尉

寛永九年六月永井日向守直清（なほきよ）が

先容（せんよう）をもつて

将軍家に拝礼しつかへたてまつり御小姓

家紋

剣鳩酸草（けんかたばみ）

国立公文書館
National Archives of Japan

川上（かはかみ）

●盛重（もりしげ）

源（げん）右衛門　生國三河（みかは）　法名安孝（あんかう）

東照大権現へしつらくまいり候

盛縄（なは）

源右衛門　生國三河　法名宗安（そうあん）

大権現
台徳院殿
将軍家よりしたへくまいる

西久

源君様　生國相模

将軍家よりしつへくまいる

家紋　丸の内よ花菱

河野

治正

三右衛門　生国越前

金森清下之ありつふ

治之

勘六郎　生国武蔵

元和七年より
将軍家へしはらくまいらす

家紋
角折敷（くのおしき）に三文字（もんじ）

西川

貞則
仁右衛門尉　生国美濃
永禄十一年又十三歳にして死

貞家
仁右衛門尉　生国同前

東照大權現よりつかへまつりける
慶長十三年四月十日にて死去

貞重

右兵衛尉　生国近江

大權現
台徳院殿
将軍家へつかへまつりし歟

家紋　扇金

国立公文書館
National Archives of Japan

川合

政俊

刑部少輔　生国三河

今川家にしたがひてその後武田

信虎同信玄にしたがふ

政忠(まさたゞ)

作兵衛(さくべゑ)　生國甲斐(かひ)

勝頼(かつより)にしつかへそのゝち

東照大權現にめしいたされける

政吉(よし)

善兵衛(ぜん)　生國同前

大坂再度の御陣にあり

台徳院殿に供奉(ぐぶ)すそのゝち鈞命(きんめい)

によりて駿河(するが)大納言忠長卿に

附らる

政信(のぶ)

善兵衛　生國武藏(むさし)

台徳院殿にしつかへまつりてそ

のゝち忠長卿に属(ぞく)す

寛永十三年十二月

将軍家よりつゞく御門る
同十万石領地を預ふ
家紋　丸の内に釘抜(くぎぬき)

浦野

重政

豊前　生国信濃

武田信玄より上野の国松枝の城を

あづかれ　六十一歳にして病死

法名常西

重次

作之丞　上野松枝にむまる
小笠原兵部大輔につかふ
寛永九年七十四歳にして死去
按清

重行

八右衛門　生国信濃

はじめは小笠原右近大夫につかふ
寛永二年十二月
台徳院殿に拝謁すそののち
将軍家にしたがひつかへまつり御天守
の番をつとむ

重有

七兵衛　生国下野
はじめは小笠原壱岐守につかふ
寛永三年三月より

台徳院殿より清人さくまつゝき将
将軍家までつかへたてまつり御天守
乃番をつとむ

家紋　上り藤の丸

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan